

(新連載、ちょっと待てシリーズ 第1) **ちょっと待て!! もう一度考えてみよう。教育方針を?**

I 受け入れて「得する方法」は?

- 右表の【受け入れの心得 十箇条】のうちで、最低六箇条を実行していれば、国家試験合格に結びつけることが可能となる。
- その【最低必要六箇条】とは、以下の通りだ。
- A、**1条と3条**は、受け入れ機関はどんな事情があっても、経営計画の中で、「人財確保計画」を10年間単位で持っていなければ、経営が労働力不足によって、できなくなる。
- B、**5条**は、EPA受け入れ人数が限られているため、国籍を選ぶ程の余裕は、全体的にない。
- C、**6条と7条と10条**は、受験者に対する教育指導方法、並びに、教育結果を客観的に判断するための【絶対必要条項】であり、全ての受け入れ機関が、その観点を持っておくべき内容だ。
- 上記の観点を持たないままに、運営している受け入れ機関は、結果的に、国家試験不合格者を出すか、途中帰国者を出すか、或いは、合格しても「実践能力のある労働者」の確保が、非常に困難となることを示している。
- 多大な経費と労力を使って受け入れる以上は、確実に受け入れ機関の「実践的な労働力」に育てない限り、多大な損失を被ってしまう。よって、「得する方法」は、十箇条の1条・3条・5条・6条・7条・10条の合計六箇条を実行すれば、政府の「学習支援金」だけで教育できるわけだから、受け入れ機関の負担がなく、優秀な人財を確保できる大きな利点が生ずるのだ。

(介護【月報38】号参照)

II. 「よく働く受験者」にするには?

- 入職一年目から、受験者が「できる範囲の具体的な業務をさせる」ことが、「生活リズム」を作り出すとともに、「仕事をする労働意欲を養う」ことができ、よく働くようになることは当然だ。
- 即ち、労働環境を生活の一部として認識させることにより、「母国で養った専門知識や技能」を職場で実践できることで、「精神的満足を感じさせること」が、最も重要な観点となる。
- それに反して、多くの受け入れ機関では、受験者の日本語力が低いために、「学習時間を必要以上に与え」て、業務時間が異常に少ない所が多い。その結果、「なぜ、日本に来て日本語学習や、専門知識の学習を多くしなければいけないのか。」という気持ちが一方に興り、反面、「学習していれば、毎月給料が貰える」などの安易な気持ちを持つ。その結果、「働く意欲」が減少してしまうのだ。

受け入れの心得十箇条

- 1条:**「10年計画」を作り、【人財確保計画】を確立すること。
- 2条:**【人財確保計画】の中で、「EPA受け入れ事業の位置づけ」を明確にすること。
- 3条:**10年後の社会情勢を考慮した上で、【人財確保計画】を持つことが、重要な**経営の基本指針**だと認識すること。
- 4条:**EPA人員は継続的に受け入れなければ、必ず**人財不足**となることを認識すること。
- 5条:**人員確保の安定は、国籍にこだわらず、「**多国籍受け入れ**」の重要性を認識すること。
- 6条:**「**入職年の教育方針**」が、人財育成上の全てを決定することを認識すること。
- 7条:**言語能力育成教育は「三年計画」に基づき、指導は専門家に業務委託し、教育成果を「**数値で定期的に報告させる**」こと。
- 8条:**受け入れ機関は、受験者に**就業規則を徹底させて**、現場の実務指導、並びに、生活指導に特化すること。
- 9条:**「**日本人の価値観**」並びに、「日本事情」を学ばせること。
- 10条:**「**結果が全ての経営視点**」を保持し、教育の成果を客観的に判断できる数値で厳しく判断すること。

「3年間学習計画」は教育効果が高い!!

- 入職一年目は、机上での専門知識や用語を学習させず、業務をさせながら、日本語力を高めることに集中させた。その結果、会話力や書く力が伸びて、一年目で、夜勤も問題なくこなせるようになった。
- 二年目から三年目で、介護の参考書を自分だけで読めるようになり、国家試験問題も解ける力が身についた。日本人よりもよく働き、介護日誌も上手に書き、本当に助かっている。

Ⅲ.「自分から学習する受験者」にするには？

- 教育では、大原則の【教材が全てを決定する】がある。即ち、外国人に限らず、受験者が理解できる内容を積み上げながら、「教育レベルの段階が必然的に解る教材」を使えば、自ずと、「自分から学習する」ことは、当然のことだ。
- 即ち、【分かり易いものから、難解なものへ】の「原則的な教育視点を持つ人」であれば、誰しも容易に理解できることだ。そのような教材を使用した結果、受験者は【自学能力】が身につく、受験者にとって必要な領域、或いは、関心が持てる領域に対して、積極的に自学していく意欲が生ずることは、当然だ。
- E P A関係者に限らず、このことは【当然の理】の観点であり、少し考えれば、誰でも気づくことだ。しかしながら、受け入れ機関の中では、特に、事業団からの大量な教材が届き、教育指導などで入職一年目から難解な教材を使用させて、受験者の困惑と学習意欲を削ぎ落している事実がある。
- 【到達度試験参加者】の教育方針は、事業団の教育方針とは全く異なり、前述した観点から、受験者の言語能力を把握して、「言語能力の段階を、一步一步登る方法」をとっている。そのために、【到達度試験】参加後の2～3か月の短期間で、【自学能力】を身につけている。

教材の選択眼が、全てを決める！！

- どんな教材が良いのか分からずに、一年目は事業団の教材を使って学習させていた。しかし、「10分間テスト」の結果が悪く、基礎からやり直す必要があると実感した。
- 現在は、ことばの研究社の教材を使って学習して、基礎言語能力を身につけるための指導を受けている。「教育効果」が職員が行っていた時よりも、目に見えて高まっていることを実感できている。

<三重県・V施設>

Ⅳ.「学習支援金」を上手に使うためには？

- 国民の税金である「学習支援金」は、将来、高齢化社会を支えるために、血税を予算化したものだ。即ち、「公金」を受け入れ機関は受け取っているのだから、活用方法は、「受験者の言語能力の育成」に限られた「公金」だ。
- しかしながら、受け入れ機関の中には「学習支援金」を教育費用として支出せず、備品や交通費などの諸経費に充てている所が多くある。その結果、【教育の質】が低いために、国家試験合格に結び付く言語能力を養えずに終わっている。
- 「学習支援金」を上手に活用すれば、間違いなく、受け入れ機関の労働力確保に繋がることは、明白だ。「上手に使う」とは、言語教育に素人の職員が対応しても、十分な教育ができることは、決してない。よって、言語教育は、「言語教育の専門家」に任せるべきだ。(看護【月報 45号】)

教育に力を入れて、施設をPR！！

- E P A候補者に施設を選んでもらわないと、採用したい人材がいても採用できないことが多い。そのため、当施設の方針は、受験者の言語能力を高めて、他の受験者との差別化を明確にさせることにした。
- その結果、受験者間でこのことが広まれば、当施設への希望者が増加すると考えている。だから、「学習支援金」を最大限に利用して、日本語教育の専門家に委託し、質の高い受験者作りに努めている。

<愛知県・M施設>

Ⅴ.「学習支援金の流用」は、法律違反と知っていますか？

- 介護【月報 52号】で紹介した通り、「学習支援金」は国民の税金を予算化したもので、その目的は、将来の看護・介護分野での労働力不足を、E P A協定国の人材で補おうとするものだ。そのために、大切な血税を使って、E P A候補者受け入れ機関に対して、「学習支援金」として支給されていることに対する「現状認識」を、受け入れ機関経営者は常に持っていなければならない。
- 最近の「助成金・補助金」の不正流用事件として挙げられている例は、社会福祉法人「夢工房」の事件が、2016年6月9日に報道されている。これは、「運営費に3,000万円の不正流用」が指摘されているもので、親族架空勤務で報酬金に流用していたものだ。なお、「夢工房」は、兵庫県を拠点に全国展開している親族法人だ。
- この例でも分かる通り、「学習支援金の流用」は、法律違反であることを、再度、認識することが大切だ。

学習支援金があるのに、なぜ職員が指導しなくてはいけないのか、疑問だ！？

- 初めての受け入れで、日本語の先生に指導依頼したいと思って、理事長に「学習提案」や「見積書」を見せたが、「職員で行うように」との決定が出された。
- 【月報】にも書かれていたが、「学習支援金」は、候補者が日本語学習や受験勉強をするための支援金のはずなのに、どうして、職員で行うようにとの指示が出るのか、疑問だ。

<大阪府・M施設>

無料で受けられる「10分間テスト」の評価を利用しよう！

- <特徴>
- ① 受験者の真の言語能力の姿がよく分かる
 - ② 字形判断から、性格や精神状態まで分かる
 - ③ 実態把握できれば、必ず教育指導に役立つ

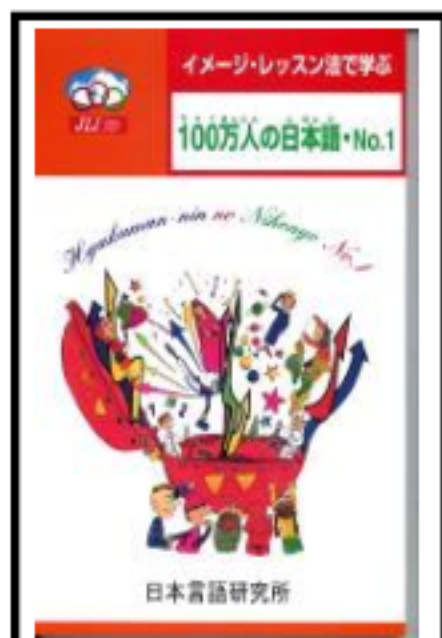
自学能力を養うための 適切な教材！！

- ① 視覚的に学べる ② 日本語の「規則性と用法」が学べる
- ③ 漢字も類推して読める ④ ストーリー性があり、体系的に作られている

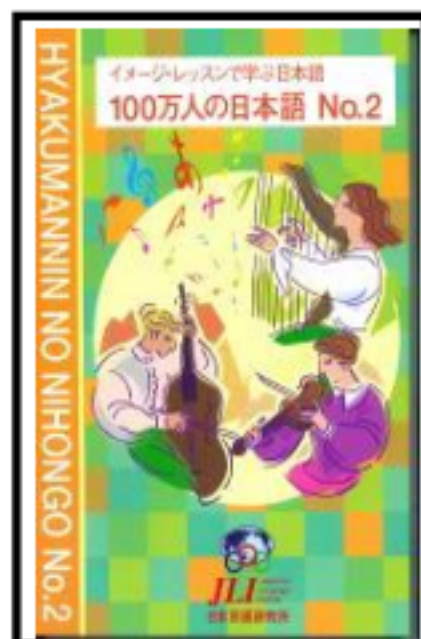
EPA学習支援
スカイプ・教材の無い自宅
ことばの研究社
電話：086-431-3481
FAX：086-431-3482
岡山県倉敷市庄新町 9-4-12

学習支援 主教材

基礎言語能力レベル



【テキスト「100万人の日本語 No.1」】
ひらがな・基本漢字の習得とともに、全ての言語活動の基本となる概念を形成し、名詞文・存在文・普通動詞文を無理なく学習できる構成となっています。(2,805円)
※ 習得漢字数 310字～620字
※ 習得語彙数 520語～1,560語



【テキスト「100万人の日本語 No.2」】
会社や学校、家庭内などあらゆる場面における会話文を中心に構成され、社会生活に必要な抽象語を理解しながら、性別や立場による言葉の使い分けを習得できます。また、形容詞文学習により心情・語感表現力の基礎を築きつつ、各ページのコーナーで日本語のあらゆる規則性と用法を自学できます。(2,805円)
※ 習得漢字数 420字～840字
※ 習得語彙数 570語～1,710語

生活言語能力レベル



【テキスト「100万人の日本語 No.3」】
日本社会に適應できる人間関係を理解して、目上の人に対する礼節を保つ表現力が身につきます。
論理的に文を組み立てた長文が書けると同時に、漢字熟語を使った要約文を書けるようになります。
仕事に関連する語彙を自分で辞書を引いて調べることができます。(3,300円)
※ 習得漢字数 850字～1,700字
※ 習得語彙数 1,110語～3,330語

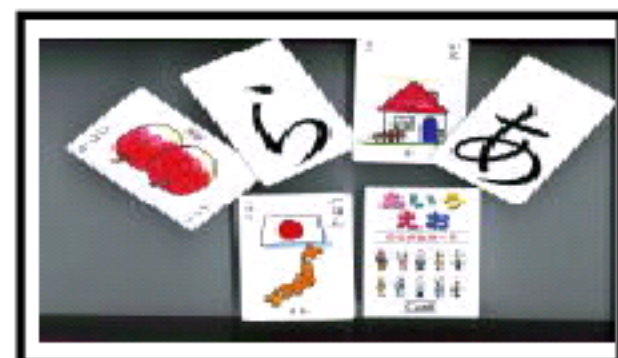
使ってみてビックリ！

教育効果の高さ

学習支援 副教材

基礎言語能力レベル

職員の手が掛からずに、
受験者だけで勉強できる教材



表面にはひらがな文字が一文字ずつ書かれており、裏面にその文字を使った語のイラストが色彩鮮やかに描かれています。

イラスト面には「ひらがな・カタカナ・漢字」の3種類でその言葉が表記されており、学習者が文字を比較しながら自学できるつくりになっています。基礎教育の日本語学習者に最適な内容になっています。

(1,155 円)



ひらがな文字の自学に最適な教材です。字形、書き順などの練習だけでなく、全ての日本語の基礎となる「しつもとこたえ方」に絶対必要な発話方法を、身近な事例を使って学習できるようになっています。社会生活に必要な最低限の語彙も同時に習得し、定着できるように作られています。

(1,980 円)



『100万人の日本語 No.1』に沿った構成となっており、文型・成文の習得をしながら効率的に漢字の読み書きが習得できるようになっています。

非漢字圏の学習者が漢字習得をする上で最適。

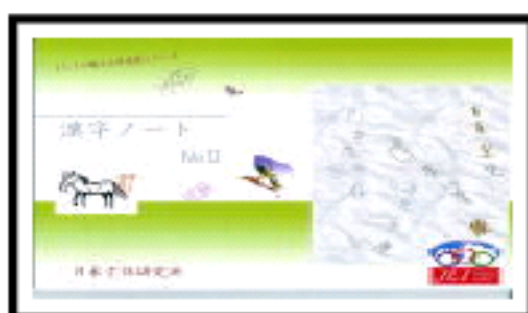
また、中国人学習者にも同様です。(1,496 円)

生活言語能力レベル



カタカナ語彙を使った場面を表すイラストが各ページにあります。このノートは説明文と会話文が綴り成されてされています。この場面を紹介する文は、外来語の理解とその育出し練習をしながら、練習問題によって読解力と文型の応用力を養えるようになっています。

(1,496 円)



『100万人の日本語 No.2』に沿った構成となっており、漢字習得と成文練習のみならず、読解力も同様に養えるように作られています。

漢字の「へん・つくり」の付録もあって、漢字の成り立ちに対する理解ができる内容となっています。

非漢字圏の学習者が漢字を習得する上で最適。

また、中国人学習者にも同様です。(1,496 円)

◎ 到達度試験Aコース(独立型)

ことばの研究社

<自学能力養成型コース>

【一年目 到達度試験 初回レベル～Dレベル】

※ 【自学能力】を養うことを目的としたコースです。
言語能力は、日本人の中学2年生までの能力に達するようにプログラムされています。

※ 【自学能力】を養う教材を使用

主教材 ・「100万人の日本語No.1」

(日本語の規則性と用法育成用)

・「100万人の日本語No.2」

(中文読解と文脈理解育成用)

副教材 ・ひらがな絵かきと (瞬時反応能力育成用)

・ひらがなの一と (構文力育成用)

・カタカナノート (説明文・会話文の用法育成用)

・漢字の一と1 (基礎漢字と文型理解育成用)

・漢字ノート2 (熟語漢字習得育成用)

・手渡し教材随時

【二年目 到達度試験 Eレベル～国試3レベル】

※ 日本人の専門学校生と同等レベルの言語能力に達することを目的としたコースです。そのため、マークシート方式の国家試験問題の解答能力だけでなく、文書で解答できる能力が育成できます。

※ 主教材 ・「100万人の日本語No.3」

(日本語の運用と活用育成用)

副教材 ・手渡し教材随時

・国家試験過去問題集

【三年目 スカイク授業 5回(1回2時間)】

※ 日本人の社会人と同等レベルの言語能力を養い、国家試験合格を目的としたコースです。

※ 主教材 ・専門参考書

副教材 ・手渡し教材随時

・国家試験過去問題集

【指導内容】

① 職種に合わせた専門書の理解の仕方指導

② 類推力の育成で専門用語(熟語漢字)の対応指導

③ 要約力を養い実務能力の育成指導

【学習並びに、問題点を客観的に把握するために、以下の報告書提出し、現場の指導に役立てます。】

※ 【到達度試験】後は、毎回「考察票」を提出。

※ スカイク授業後は、毎回「授業内容報告書」を提出。

※ ※ 価格等の詳細については、メールでお問い合わせ下さい。

各段階の学習目標と、特徴

一 年 目	★基礎言語能力の育成 ①日本語の「規則性と用法」を理解させて、【自学能力】を養う。 ②1,755語の基本漢字が習得できて、日本人の中学2年生レベルの言語能力を養う。 ③会話力は、生活上に支障が無いレベルで、意思伝達能力は、話し相手と円滑にできる能力を養う。	●日本語能力を養う ①職場での会話力は、日本人の中学2年生レベルまで、できるようになる。 ②職員の指示を的確に内容把握でき、それに従って行動できるようになる。 ③読解力が身につくため、必要な日本語文の書類を読むことができるようになる。 ④簡単な業務日誌が書けるようになる。
二 年 目	★生活言語能力の育成 ①日本語の「運用力」を身につけ、正確な意思疎通力を養う。 ②仕事を自主的に行い、責任を持って業務を遂行する能力を養う。 ③日本語力を高校3年生レベルにし、夜勤業務に就ける能力を養う。	●国家試験受験能力を養う ①専門参考書の「技術編」を読み、文で答えられるようになる。 ②専門用語の漢字を「類推して読解」できるようになる。 ③自学で「過去問」ができるようになる。
三 年 目	★職域言語能力の育成 ①日本語を使った「業務実践力」を行える能力を養う。 ②会議等で意見を発言し、内容把握ができる能力を養う。 ③要約力を養い、会議等で的確なメモをとれる能力を養う。 ④日本人の社会人と同等レベルの言語能力を養う。	●国家試験合格能力を養う ①専門参考書の抽象問題領域「法律・日本事情等」が読解できるようになる。 ②日本事情の専門知識を体系的に把握して読み理解できるようになる。 ③マークシートの解答ではなく文書による解答ができるようになる。

◎ 到達度試験Bコース(併用型)

< おまかせコース >

【一年目 到達度試験(初回~Dレベル)+スカイプ】

※【自学能力】を養える【到達度試験】と対面教育ができる「スカイプ授業」を併用しています。

日本人の中学2年生までの能力に達するプログラムで、特に、正しい会話力が身につけられるコースです。

※【自学能力】を養う教材を使用

主教材・「100万人の日本語No.1」

(日本語の規則性と用法育成用)

・「100万人の日本語No.2」

(中文読解と文脈理解育成用)

副教材・ひらがな絵かき(瞬時反応能力育成用)

・ひらがなの一と(構文力育成用)

・カタカナノート(説明・会話文の用法育成用)

・漢字の一と1(基礎漢字と文型理解育成用)

・漢字ノート2(熟語漢字習得育成用)

【二年目 到達度試験(E~国試1レベル)+スカイプ】

※日本人の専門学校生と同等レベルの言語能力に達することを目的としたコースです。

スカイプ授業併用型なので、マークシート方式の国家試験問題の解答能力だけでなく、文章で解答できるようにプログラムしています。

※【自学能力】を養う教材を使用

主教材・「100万人の日本語No.3」

(日本語の運用と活用育成用)

副教材・手渡し教材随時・国家試験過去問題集

【三年目 到達度試験(国試2,3レベル)+スカイプ】

※日本人の社会人と同等レベルの言語能力を養い、国家試験合格を目的としたコースです。

日本人の職員と同等に業務ができるまでの能力に達するように、プログラムしています。

また、国家試験合格後でも、同じ職場で働く意欲を養うことも目的としています。

※主教材・専門参考書

副教材・手渡し教材随時・国家試験過去問題集

【指導内容】

①職種に合わせた専門書の理解の仕方指導

②類推力の育成で専門用語(熟語漢字)の対応指導

③要約力を養い実務能力の育成指導

【学習並びに、問題点を客観的に把握するために、以下の報告書を提出し、現場の指導に役立てます。】

※【到達度試験】後は、毎回「考察票」を提出。

※スカイプ授業後は、毎回「授業内容報告書」を提出。

※※価格等の詳細については、メールでお問い合わせ下さい。

各段階の学習目標と、特徴

一年目

★基礎言語能力の育成

- ①スカイプ授業を併用するために、対面学習で、適切なプロの指導が受けられる。そのために、確実な日本語力が養える。
- ②日本語の「規則性と用法」を理解させて、【自学能力】を養う。
- ③1,755語の基本漢字を習得でき、日本人の中学2年生レベルの言語能力を養う。
- ④会話力は、生活上に支障が無いレベルで、意思伝達能力は、話し相手と円滑にできる能力を養う。

●日本語能力を養う

- ①職場での会話力は、日本人の中学2年生レベルまで到達できる。
- ②職員の指示を的確に内容把握でき、それに従って行動できる。
- ③読解力が身につくため、必要な日本語文の書類を読むことができる。
- ④簡単な業務日誌が書ける。
- ⑤スカイプ授業は、受験者の表情を教師が読み取れるので、「本当に理解しているか、どうか」が判断でき、確実な言語能力がつく。

二年目

★生活言語能力の育成

- ①日本語の「運用力」を身につけ、正確な意思疎通力を養う。
- ②仕事を自主的にやり、責任を持って業務を遂行する能力を養う。
- ③日本人の高校3年生レベルにし、夜勤業務に就ける能力を養う。
- ④日常会話力が支障なく使える能力を養う。

●国家試験受験能力を養う

- ①専門参考書の「技術編」を読み、文で答えることができる。
- ②専門用語の漢字を「類推して読み、意味理解」できる。
- ③自学で「過去問」を解ける。
- ④スカイプ授業併用型なので、問題・疑問が、その場で解決できる。

三年目

★職域言語能力の育成

- ①業務の実践力を養う。
- ②会議で意見を発言して内容把握でき、メモをとる能力を養う。
- ③話の内容を的確に、まとめる能力を養う。
- ④日本人社会人と同等レベルの言語能力を養う。
- ⑤スカイプ授業なので日本人感覚の「語感・語調」を、正しくプロの教師が養う。

●国家試験合格能力を養う

- ①専門参考書の抽象問題領域「法律・日本事情等」が読解できる。
- ②日本事情の専門知識を体系的に把握して、読み理解できる。
- ③マークシートの解答ではなく、文章による解答ができる。
- ④専門語彙と専門知識を自学できる。

【 国家試験受験能力到達度試験の特徴 】 EPA学習支援 こぼの研究社

【国家試験受験能力到達度試験】の特徴は、自学能力を養い、言語技能が並行的に伸び、受験者の対応能力が養えます。 教育効果は介護分野では、国家試験合格者を **3年間連続で、80%以上の実績を誇っています。** また、看護分野でも、EPA受験者全体の合格率が10%前後に留まっているのに対して、【到達度試験参加者】の合格率は、**55%**と高い水準を保っています。

これは、**受験者全体の合格率10%の5倍の高さ**を示しており、驚異的な合格率といえます。

※ 本試験は、あくまでも、専門領域で社会人として働ける能力を養うことを、重要視した学習方法です。

さらに、受験者が日常の業務の中で、日本人職員とのコミュニケーション能力をも身につけることができるために、介護施設や病院などで実践力のある要員として、育成することを目的としています。

※【到達度試験参加者】には、定期的に試験結果を「考察票」でお送り致します。「考察票」には、指導者用のために、具体的な指導方法を記しておりますので、安心してご指導頂けます。

レベル	合格基準	特徴	技能の種類	合格
3段階	75 % 専門学校卒の 言語能力	※ 国家試験に対する合格力と知識力を養う ◎ 国試問題に対する「文脈読解」と「要約力」 に対応できる学習をさせる。	★ 5 技能 ・ 瞬時反応 ・ 文脈読解力 ・ 要約力など	職 域 言 語 能 力 を 養 う
2段階	90 % 専門学校 2 年 の言語能力	※ 専門知識の活用力を養う ◎ 国試過去問を使った「漢字専門用語」（漢字 熟語）と「文脈読解力」に対応できる学習を させる。	★ 4 技能 ・ 瞬時反応 ・ 漢字熟語力 ・ 文脈読解など	
1段階	90 % 専門学校 1 年 の言語能力	※ 専門知識の運用力を養う ◎ 国試過去問を中心とした問題で「読解力」 （語彙力・文意力）に対応できる学習をさせる。	★ 3 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 文意読解など	
F段階	85 % 高校 3 年の 言語能力	※ 専門領域の基礎力を養う ◎ 介護・看護の基礎知識を基に具体的な事例で 学習させる。	★ 4 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 文意読解など	生 活 言 語 能 力 を 養 う
E段階	80 % 高校 1 年の 言語能力	※ 日本語の「規則性と用法と運用力」を養う ◎ 日本語の規則性を基に、学習目的にそった 運用力が身につく学習をさせる。	★ 9 技能 ・ 文読解力 ・ 図読解力など	
D段階	75 % 中学校 2 年の 言語能力	◎ 日本語の用法を基に、学習目的にそった 自学力が身につく学習をさせる。	★ 11 技能 ・ 対応力 ・ 要約力など	
C段階	70 % 小学校 6 年の 言語能力	◎ 日本語の規則性を基に、学習目的にそった 自学力が身につく学習をさせる。	★ 11 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 文脈力 など	基 礎 言 語 能 力 を 養 う
B段階 N2レベル	70% 小学校 4 年の 言語能力	※ 日本語の基礎知識を養う ◎ 日本語を表現するために必要な「基礎的な 知識とその使い分け」ができる能力を中心 として学習させる。	★ 11 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 読解力など	
A段階 N3レベル	75 % 小学校 3 年の 言語能力	・ 構文力・読解力・文字（ひらがな・カタカナ・ 漢字）・助詞・接続詞の使い分けなど。	★ 13 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 文字認知力 ・ 読解力など	
初回		受験者の現状の日本語能力を観る。		